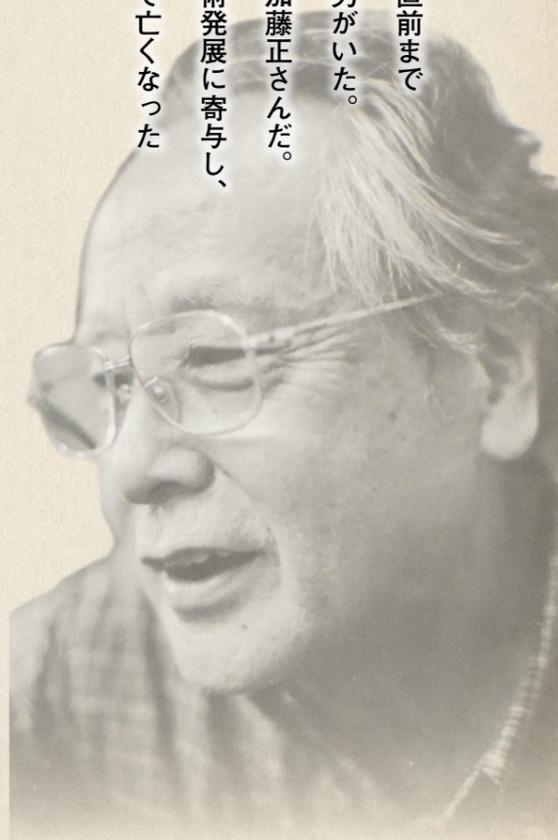


希望は自由の 名の下に 加藤 正

ここに串間市出身で死の直前まで
芸術活動にいそしんだ男がいた。
反骨の画家と言われる加藤正さんだ。
本号では市の文化、美術発展に寄与し、
今年の5月1日に90歳で亡くなった
加藤さん特集する。



『星ふるさとの女神ムーサイ』市文化会館 緞帳

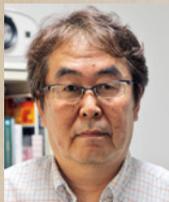


『あまかけるフェニックス』市文化会館



東京美術学校時代の絵(現在の運動公園周辺)

加藤正さんとの邂逅



加藤さんと初めて会話を交わしたのは、2003年10月、仲町のギャラリーで個展をやっていた時です。そこでフラクタスへの参加を勧められ、お付き合いが始まりました。「デモクラート」に関しては全く知識が無く、美大の彫刻科を卒業した身にしては、芸術の世界にあまり興味が無い自分にとって、「フラクタス」は身勝手の効く、しんどくて、自由で、不自由な空間でした。

フラクタスメンバー
たなか ようすけ
田中 庸輔さん

加藤さんの、何者も否定しない自由闊達で奔放な懐の深さに助けられ、魔界に迷い込んできたような非常に苦しくも楽しい時間を過ごすことができました。

市文化会館の大ホールに入り

ステージを見ると、まぶらに飛び込んでくるのがカラフルに彩られた緞帳。1991年に加藤正さんによりデザイン制作されたもので、作品名は『星ふるさとの女神ムーサイ』だ。

ムーサイとは芸術を司るギリシア神話の女神。その女神が9体いて、都井岬の馬と合わせて串間(クシウマ)、それらが南の空に輝くさそり座の見える里にやって来るというテーマで作された。朝と夕方と夜に画面を分けて、串間の自然と文化が栄えることを祈るという意味もある。

「こんな緞帳はなかなかない」と、市民から言われるほど印象に残るもので、作者は知らなくてもみんなに認知されている。

人を介して、同クラブのメンバーに会いに来た。それが加藤と瑛九の初対面だった。

東京美術学校卒業後の1952年、画家としてどう生きるか迷っている時、上京してきた瑛九と再会し、すでに大阪で旗揚げしていたデモクラート美術家協会を東京で共に結成。瑛九に『絵描きは権威だとか、名声ではない。命を賭けてやっていかなきゃだめだ』と説得された。その時すでに内定していた美術大助手の仕事も断り、デモクラートの会員集めに奔走。機関紙発行を手掛けるなど事務局的な役割を担った。

「世界ではシュールレアリスム(※1)や抽象画が盛んなのに(芸大の教授たちは)昔ながらの印象派的なデッサンばかりで、そこに触れない。かたや瑛九の絵は芸大のとは違う雰囲気だ、こういう絵を描く人がいるのか」と。僕が現代美術を展開するための、その突破口が瑛九だったね」と後に語っている。

仕事や家庭に追われて物事を深く考えるのを忘れてしまった現代人。
自分の理想を掲げて、それを貫き通した先人がいたことをいつまでも記憶に留めたい。
私たちも、この権威を疑うという姿勢から学ぶべきことがあるのかもしれない。

他に1963年に制作された『あまかけるフェニックス』という絵画も正面玄関入ってすぐ飾られており、加藤さんの作品は文化会館で行われる数々のイベントに花を添えている。

加藤正さんの生い立ち

1926年(大正15年)に串間市で、加藤医院の次男として生まれる。旧制県立飫肥中(現日南高)から東京美術学校(現東京藝術大学)に進み、油絵を学ぶ。作品は個展での発表が中心で、版画、油彩、コラージュほか、詩作も手掛けた。2001年には、宮崎県内の芸術家で作る新芸術集団フラクタスを旗揚げ、代表を務める。串間市でも、1993年に県立福島高校創立70周年記念講演

『民衆』の存在を中心に芸術の在り方を考えるスタンスが、デモクラート美術家協会の考え方が何枚もできて安く買えるとして、その普及にも尽力した。瑛九のデモクラート解散後は、岡本太郎主宰のアートクラブなどに参加。あいかわらず公募展には出品せず、個展をベースにした芸術家人生を送った。

加藤正が1952年3月「東京デモクラート展」で掲げた当時の活動理念

- 一 真のアンデパンダン(※2)を貫くため最も民主的な会の運営をはかる。
- 二 無審査・会員・会友・一般参加の階級制を設けず無審査により全員会員。
- 三 会員は既成公募展に出品しない。

新芸術家集団フラクタス

現代芸術のさまざまな分野で、個性と現代性を求める絵画・版

2009年に市文化会館で『加藤正ふるさと展』を開催するなど文化、芸術面で貢献している。

瑛九との出会い



昭和28年 軽井沢デモクラート合宿(左が加藤正、右が瑛九)

1945年の終戦後初めて迎えた冬、仲間と芸術愛好家の会『串間文化クラブ』を結成していた加藤。そこに共産党のオルグ活動のために串間に来た宮崎出身の画家、瑛九が共通の知

画・詩・立体・写真・映像・書・陶芸・音楽・芸術論などの作家が、郷土の先駆者である瑛九の精神を伝承し発展させるべく、自由と前進と創造の旗のもとに集まったグループ。



2005年12月22日 県立芸術劇場レストランにて第7回フラクタス展開催を祝って

詩人加藤正としての顔 宮崎県詩の会

1998年に詩集『逆光線』出版、『原爆詩181人展』参加。2013年には詩集『薔薇海峡』を出版しており、詩と絵の表現が対照的だと言われている。